

もっと住民の声を 聞く市政を



市議会議員
いぬい 紳一郎



市議会議員
小田 桐たかし



市議会議員
徳増きよ子



市議会議員
植田 和子

H29年4月に市教育委員会が作成した
想定値（過大規模校の推移）
※小山小・八木北小学校は学区変更した場合

H29年 4月1日現在	流山小、小山小、 おおたかの森小学校
H35年度	流山小、八木北小、 小山小、おおたかの森小、 南流山小学校、 おおたかの森中学校

とところが市長の政策判断のもと、人口急増に対応せず、市内各地で大規模校・過大規模校が続出しています。

文部科学省では、小中学校の適正規模を18学級とし、大規模校（25学級以上）及び過大規模校（31学級以上）では、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる、人間関係が希薄化、教員集団できめ細かな指導を行うことが困難など指摘し、31学級を目安に新設校等を検討できることになっています。

「人口急増」流山 問われる学校の適正配置・適正規模

議会の役割は行政をチェックし、市民の声を市政に反映させること。ところが、試行とはいえ6月議会から質問の持ち時間を10分短縮し30分にするのを自民・公明・市民クラブの賛成で決定。本会議が3時に終了する事態も…。市民からも「とんでもない」の批判が出されています。

2校に3千人

小山小学校と八木北小学校の2校に最大98学級、3千人を詰め込む計画を学区変更だけで済ませようとする姿勢にインターネット上には批判する意見が噴出。

無計画行政のツケ

さらに、想定外の新設小学校の予定地は、多くの児童がいる地域から遠く離れ、大型車両が数多く走る大規模道路を渡る通学路になります。

教員の多忙化 解消へ

中学教諭の1週間の平均勤務時間は63時間18分で、1日あたり12時間。過労死ラインを超えています。これでは、健康を維持し生き生きと子どもたちに接することは困難です。

教育委員会は勤務時間の適正化強化月間で超過勤務の縮減、部活動は週1の休養で多忙化解消すると答弁。実効性ある取り組みが求められます。

「母になるなら…」との宣伝にも関わらず、流山市の今年4月時点の待機児は国基準で92人、求職中等も含めた待機児実数は307人に…。だからこそ保育士の処遇改善は、喫緊の課題なのに、千葉県は本腰を入れていませんでした。



国保

保険料値上げ狙う

来月4月、国保の運営主体が流山市から千葉県に移ります。国保制度は、年金生活者や非正規労働者など、低所得の方が多く加入しているため、心配なのは国保料はどうなるのかということです。千葉県が実施した2回目の仮計算で「2万3231円（年）上がる」と船橋市は議会で公表。いっぽう流山市は「保険料が上がる傾向になる」という答弁のみで隠していました。その後、県議団の調査で流山市は、1万9487円（年）と県下4番目の上げ幅であることがわかりました。市民生活を直撃する国保料引き上げはさせないよう力を合わせましょう。



保育

保育士さらなる処遇改善へ

独自の「ちば手当」支給を決定。流山市でも活用できるよう6月議会で取り上げました。市は「活用できるよう前向きに検討する」と答弁。更なる処遇改善に踏み出します。



身近な要求実現

和田堀改修、
水害対策前進（三輪野山）
いぬい 紳一郎



駅前駐輪場
待機解消へ一歩前進
小田 桐たかし



「見やすくなった」
木谷工業前カーブミラー
徳増きよ子



江戸川台西口駅前
通路改修で水たまり解消
植田 和子

